

「平成26年度製品安全対策優良企業表彰 経済産業大臣賞の受賞」について

YKK AP株式会社 商品品質管理部 牛丸 禎

YKK AP株式会社は、経済産業省主催の平成26年度第8回製品安全対策優良企業表彰において経済産業大臣賞を受賞いたしました。平成22年度に続き2回目の受賞となります。ここでは表彰制度概要や弊社の受賞ポイントとなった取り組みなどをご紹介し、本誌の読者を通じて生活者に製品安全の重要性を再認識していただく機会の一助になればと考えます。



表彰制度概要

注)製品安全対策優良企業表彰のホームページから引 用させていただきます。

製品安全対策優良企業表彰は、2007年(平成19年)に 始まり、今回で8回目となります。

本表彰は、製品安全に積極的に取り組んでいる製造事業者、輸入事業者、小売販売事業者をそれぞれ企業単位で広く公募し、厳正な審査の上で、「製品安全対策優良企業」として表彰するものです。本表彰では、各企業が製造・輸入・販売している製品自体の安全性について評価するのではなく、企業全体の製品安全活動について評価します。

審査基準として、次の「4つの視点」から評価します。

全な製品を製造(仕入れ・販売)するための 取り組み



製品の安全性の確認(試験装置による評価)

2 製品を安全に使用してもらうための 取り組み





安全に関わる情報の発信(HP・冊子による情報提供)

3 出荷後に安全上の問題が判明した際の取り組み(事故やリコール等が起きた際の取り組み)





リコール情報の伝達(ハガキ・電話によるフォロー)

4 製品安全文化構築への取り組み





製品安全の意識啓発(ワークショップの開催)

YKK APの受賞ポイントと取り組み

3点の受賞ポイントと、その取り組み例を紹介します。

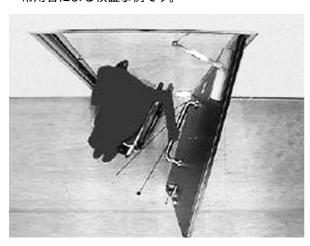
注) の受賞ポイントは公表された文章原文を引用させていただきます。

生活者検証の強化

製品開発プロセスにおいて、子ども、高齢者、ハンディキャップを持った人などの生活者の行動を踏まえた検証を強化し、安全に配慮した製品を開発・実現している。

・取り組み例

弊社では2007年に設立した価値検証センター(Value Verification Center 略称: VVC)にてモニターの協力を得て新商品の使い勝手などをチェックし、より使いやすい商品のポイントを開発現場にフィードバックするなど、生活者目線でのモノづくりを具現化しています。当初は健常者を中心に検証を実施しておりましたが、最近では年々モニター対象を拡大して検証強化を図っています。下は車いす常用者による検証事例です。



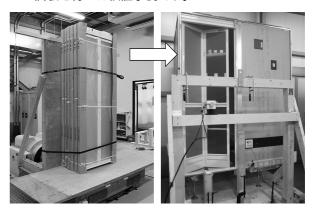
複合的な環境要因によるリスク検証

風雨・経年使用など様々な実環境を再現した耐久試験において、JIS等の試験基準に加え、洗剤・砂・温湿度など、複合的な環境要因を付加した試験を実施し、より実環境に近い条件におけるリスク検証を実施している。

・取り組み例

前述のVVCでは、実際の環境を再現した実験室も備えており、輸送・荷扱い、暴風、雨、経年劣化などの検証を充分に実施しています。通常は試験項目ごとに個々の試験体で評価しておりますが、市場で発生した不具合が再現できない事例があり、一つの

試験体を製造~輸送~施工~実使用という実際の製品の流れを再現するように各種試験項目を複合的に 検証する方法を一部の製品で実施しています。この 方法により不具合が再現でき、効果的な改善に至っ た事例があります。下は輸送を想定した振動試験と その試験体を実使用の再現環境に設置して開閉繰返 し試験を行った検証事例です。



安全に使用・メンテナンスするための情報伝達

生活者の視点で、窓・ドア等の掃除やお手入れ作業のリスクを数値化・分類し、製品を正常な状態で使用するためのメンテナンス・お手入れ等の生活者向けガイドブックを作成・配布している。また、QRコードの活用や保証期間の延長制度を活用した利用者情報の把握にも努める。

・取り組み例

前述の生活者検証のノウハウを活かし取扱説明書の見直しを行いました。製品の検証とリスク評価を行い、生活者に伝える内容を整理しました。「使い方」と「お手入れの方法」だけでなく、「安全上の注意事項」についても統一した形式として生活者がそれぞれの重要性を理解しやすいように工夫しています。下の「使い方&お手入れガイドブック 窓・ドア編」は日本マニュアルコンテスト 2014で"マニュアルオブザイヤー"を受賞しました。



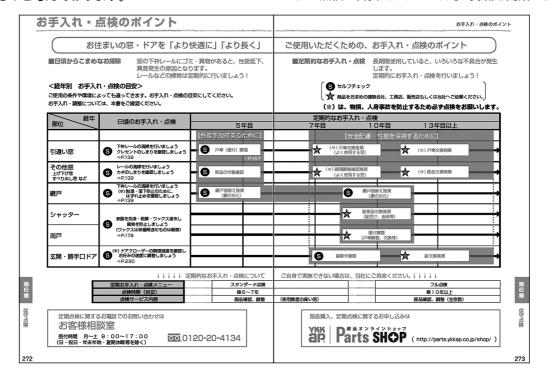


今回の受賞を通して

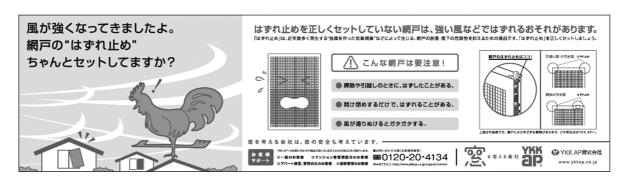
平成22年度受賞時の審査委員からのコメントを受け、継続的に取り組みを深化・拡大してきました。その結果が今回2回目の経済産業大臣賞に評価していただいたものと考えております。

一方で、未だ弊社での製品安全活動には課題があります。その一つが、生活者自ら製品の状態を点検して必要に応じて交換・修理につなげていただくための啓発や情報提供、及び部品等設定の整備と考えます。

見直しをした「使い方&お手入れガイドブック 窓・ドア編」には新たな取り組みとして、下のような「お手入れ・点検の目安スケジュール」の掲載を開始しました。



また、生活者が取り外しされることの多い「網戸」に ついて、清掃やネットの張替えなどのために取り外し た後の再設置時に、はずれ止めのセット忘れや調整不 足等による網戸落下事故を防止するための安全啓発と して下のような内容の新聞広告掲載を2013年に実施し ました。



弊社のホームページでは使い方やお手入れなどのアフターサポート全般の情報を掲載しております。 http://www.ykkap.co.jp/support/ YKK AP株式会社は、生活者の安全・安心に向けての取り組みをさらに進め、これからも製品安全のトップランナーとして活動を続けてまいります。

